

事業所名

木曾こどもセンター（児童発達支援）

支援プログラム

作成日

2024 年

4 月

1 日

法人（事業所）理念		法人理念：「あつてよかった」をすべてのひとに 事業所理念：ひとりひとりの育ちによりそって					
支援方針		発達に心配のあるお子さんの状態とご家族のニーズに寄り添い、将来を見通した計画の基に生活技術を身につけていく。 健全な家族関係の形成を促し、地域生活を円滑に過ごすことができるように支援する。					
営業時間		8 時	30 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
時間・頻度		週1～5日利用を基本とし9：20～12：30までの約3時間を親子で過ごします。			対象児	主に1～6歳のお子さん	
支 援 内 容							
5領域から個々に合わせた個別支援を設定し、少人数の集団保育に親子で参加していただき、お子さん持っている力を十分に引き出せるように支援しています。							
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を考えます。食事、排泄を身につける方法、食を営む力の育成と楽しい食事への配慮（感覚など）、支援（咀嚼、嚥下、姿勢保持など）します。遊びの中で、課題遊びを利用した支援、環境配慮を工夫します。 【プログラムの例】 来所時の検温、手洗い、挨拶、衣服の着脱、ハミガキ、うがい、食事、排泄					
	運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、様々な体の感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援します。体の感覚は、力加減や体の動きをコントロールするだけでなく、気持ちやテンションのコントロールにも役立ちます。 【プログラムの例】 サーキット（歩く・走る・跳ぶ・くぐる・跨ぐ・引っ張る・登る・揺れるなど）、ふれあい遊び、リズム遊び、感触遊び					
	認知・行動	特性に合わせて、どのような方法、環境の設定であれば円滑に活動できるかを模索し、支援します。また、「着席」、「大人をよく見る」、「初めてのこと・少し嫌なことをがんばってみる」など課題に向く姿勢、力がつくよう支援します。がんばると、「楽しい」「やってよかった」「もっとやりたい」と感じるように関わり方や内容を工夫します。 【プログラムの例】 五感の活用（制作・感触遊び・ゲーム）、動物・食べ物・生活用品などのカードを用いた物の名称の習得					
	言語コミュニケーション	“聞く”、“模倣”、“観察する”、“要求”、“報告”など、自分も周囲の人も大切にするコミュニケーションを学びます。言葉だけでなく、ジェスチャーやカードなど、子どもに合った方法を考え支援します。 【プログラムの例】 絵本、物の名称と言葉の一致、行動と言葉の意味の一致（絵カードなど）、相手とのコミュニケーションづくり、身振り・手振り・言葉などで自分の多いが伝えられる環境づくり					
	人間関係社会性	“順番交代”、“役割”、“ルールを守る”、“指示に沿った行動をする”など、社会に適応するために必要なスキルを支援します。また、“感情に気づく”、“感情に名前を付ける”、“対処法を考える”など、気持ちのコントロールを練習します。また、ストレスが強い状態の時には、子どものペースに合わせて関わり、ストレスを分散する方法を考えます。 【プログラムの例】 家族ではない他者との関係づくり、まねっこ遊び、ごっこ遊び、ふれあい遊び、欲求を適切に満たし安定した環境の中で過ごす、自分からやってみようという気持ちを育てる					
家族支援		ペアレントトレーニング 座談会（講師：作業療法士、理学療法士、心理士、児発管、保育士、等） 個別懇談、療育支援巡回相談、きょうだいへの支援			移行支援	保育園・こども園との連絡会	
地域支援・地域連携		自立支援協議会療育支援部会、重心コンダクターチーム連絡会、サビ管等連絡会に参加 町村遊びの教室参加児童との交流			職員の質の向上	中南信地区母子通園訓練施設職員研修 法人内研修会 県主催の研修会 等	
主な行事等		おさんぽ、季節の制作、夏の水遊び					